

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1 幅広い生徒の学習希望に応えるため、専門スキルを身に付けられる学習機会を提供し、工科高校として特色ある学校づくりをめざす。	<p>①生徒が各種検定や資格取得に主体的に取り組めるように創意工夫する。</p> <p>②体験的・発展的な学習活動の充実に向け、工業系大等との連携を推進する。</p> <p>③年間学習指導計画の内容を見直し、生徒に身につけさせたい到達目標や評価の方法が明示され、より具体的にわかりやすく記述し、生徒にとって学習計画を立てやすいものにする。</p>	<p>①各学年で検定や資格の取得者を増加できたか。</p> <p>②大学と連携した学習機会の提供ができたか。</p> <p>③年間学習指導計画によって、授業の到達目標や評価の方法が明示され、生徒の学習意欲が向上し、授業評価における授業への取り組みが改善されているか。</p>	<p>○1年、6月の計算技術検定4級では、合格率は、昨年より5%ほど向上した。</p> <p>○2年、各種検定への受験者数、合格者数ともに昨年とほぼ変わらず、伸ばすことができなかった。</p> <p>○3年、主要な資格・検定への取り組みと受験者数は、例年並み。ジュニアマイスター顕彰には至らないが、情報技術検定1級・第2種電気工事士・建築施工管理士などの取得があった。</p> <p>○6月の計算技術検定4級では、1年生の合格率は85.2%だった。昨年より5%ほど向上した。11月の計算技術検定3級においては31.5%だった。</p> <p>1月の情報技術検定3級では合格率が32.9%と昨年度より10%向上した。</p> <p>○ジュニアマイスター顕彰(全国工業高等学校長協会)について募ったが希望者がいなかった。</p> <p>○今年度は、湘南工科大学へ68名(情報通信系・総合デザイン系)の生徒が参加した。</p> <p>○年間を通じて年間指導計画を活用することで、科目の特性を把握でき進路選択への関心が高まった。</p> <p>○次年度履修計画(科目選択)は11月に確定することができた。</p>	<p>○1年の計算技術検定4級では、事前指導の成果があり、合格率が向上した。</p> <p>○2年は、資格・検定に積極的に挑戦し成果を上げている生徒もいるが全体的には物足りない。意欲を高めるための受験指導や年間を通しての組織的な取り組みが課題である。</p> <p>○3年では、年間予定と進路決定期間をより具体的に意識させ、積極的に受験に挑戦するように指導したい。</p> <p>○各種検定については、今年度以上に合格率向上をめざした対策に取り組みたい。</p> <p>○ジュニアマイスター顕彰(全国工業高等学校長協会)については、該当者が希望できるような取り組みを模索したい。</p> <p>○年度末に実施しているので、日程調整が難しい。</p> <p>○年間指導計画を利用することで進路に対する意識は高まっているので、学習意欲の向上につなげていきたい。</p> <p>○科目選択の結果が進路選択にいかされているかの検証が必要である。</p>	<p>(保護者) ○資格取得の指導を引き続きすすめてほしい。 (学校評議員) ○資格取得ができていているという点がよい。</p> <p>(学校評議員) ○高大の教員と一緒に研修するという方法もある。</p>	<p>(学校評価) ○基礎学力の定着を目標に取り組んだ。 ○資格取得の結果が向上した。 ○学習意欲を高めるための多くの補習、外部テストの事前学習を担当教員の協力体制を強め、実施することができた。</p> <p>(改善方策等) ○引き続き、外部テストを実施し、学習意欲を喚起したい。 ○高校改革に沿って、教育課程の見直しを進めたい。</p> <p>○湘南工科大学等との高大連携を引き続き実施していき、生徒の進路実現に役立てたい。</p> <p>○年間指導計画を作成し、授業を進めることができた。</p>

<p>2 規範意識を身に付けさせ、社会から期待される主体的な行動力を持った生徒の育成をめざす。</p>	<p>① 生徒と教職員の日常のコミュニケーションを綿密に行ない、個々の生徒の状況に応じた指導を行う。</p> <p>② 本校生徒としての心構えを持ち、自信と責任ある行動選択ができる生徒の育成を目指す。</p> <p>③ スクールカウンセラーと連携して教育相談体制を充実させるとともに、教育相談会議や研修会を有効に機能させ、全職員が共通理解を持って生徒の指導にあたる。</p>	<p>① ・遅刻・頭髪・服装のルール違反や問題行動等の件数が減少したか。</p> <p>・校内の環境整備や状況に応じた利用マナーが向上し、外部からの苦情が減少したか。</p> <p>② 生徒の中に規範意識の向上と、自覚を持った行動選択が観察できたか。</p> <p>③ ・スクールカウンセラーや専門機関等と連携して、適切な対応ができたか。</p> <p>・ケース会議を開催し、個別の支援ができたか。</p>	<p>○学校生活における必要な注意事項を、HRや集会等で繰り返し伝え、注意喚起を促した。遅刻については、回数に応じた指導を行った。</p> <p>○特別指導は昨年 22 件が 40 件と増加した。3 年生は 2 年の時と比べ 6 → 6、2 年生は 1 年の時と比べ 13 → 10 と増加していないが、1 年生は 24 件と例年に比べ倍近い発生率で、その分が大幅な増加となった。</p> <p>○遅刻については例年と変わらない状況であった。</p> <p>○服装指導は 3 学期から正門での指導を始めた。</p> <p>○年 3 回の通学路清掃を計画し、地域清掃、ごみの分別活動等を 1 学年対象に 2 回実施した。</p> <p>○藤工祭では、環境委員会を中心に、ごみの分別活動を行った。</p> <p>○外部からのごみの散らかしのクレームはなく、社会のルールを理解させることができた。</p> <p>○生徒会行事がトラブルなくスムーズに運営できていることから、生徒が意識を持って参加している。</p> <p>○今年度は、後期に部室棟の改修工事が入り、事前に室内のものを出して整理、処分しきれいになった。</p> <p>○生徒会本部役員選挙では 9 名が立候補し今年度の運営にあっている。生徒委員会の招集状況もよい。</p> <p>○今年度および昨年度の本校スクールカウンセラーを講師他者理解の認識を深めることができた。</p> <p>○教育相談会議を行い、当該生徒に関する情報を共有することができた。</p> <p>○ケース会議を活用し、当該生徒にふさわしい具体的な支援をすることができた。</p>	<p>○多様な生徒および個々の環境に応じた、継続的な指導が必要である。家庭との連携が不可欠であり、生徒の自律意識を高めたい。</p> <p>○問題を抱えた生徒が増えたと考えられる為、生徒一人一人の普段の生活状況を把握することで、問題行動を未然に防ぐ。</p> <p>○服装指導は成果が上がっているため、引き続き正門指導を続ける。</p> <p>○遅刻指導については効果的な方法はないので、地道な指導を続ける。</p> <p>○地域清掃場所や時期を見直すなど、内容をより充実させ、地域に貢献することが今後の課題である。</p> <p>○保護者と連携した環境整備に力を注ぎたい。</p> <p>○先を見越して、行事の運営計画を生徒がたてられるようにする。</p> <p>○今年度、夏の野球の大会で 4 回戦まで行った。生徒会でも生徒応援の呼びかけをしたが、一般生徒応援が少なかった。本校の帰属意識を高め考えたい。</p> <p>○「支援を要する生徒が多数」「個々の状況を把握しにくい」等、課題が多い。</p> <p>○生徒の生活状況に則した支援を検討していく必要がある。</p> <p>○小規模なケース会議による対応から、適切な規模による協議・支援へと充実させたい。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○だいが生徒が落ち着いてきたように思う。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○服装、あいさつ、時間を守ることの指導が大切である。</p> <p>○強制性を持たせることにより、物事をやるようになると思う。</p> <p>(保護者)</p> <p>○校内の環境整備について、PTA 活動を通して協力していきたい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○遅刻、頭髪、服装、生活のルールの指導を継続的に実施した。</p> <p>○熱心に指導する姿勢をみせたため、効果が上がっている。</p> <p>○特別指導については、2,3 年は、減少傾向にあるが、1 年については、問題行動が増加した。</p> <p>○3 学期より、服装指導に力を注ぎ、生徒の意識改革に努めた。</p> <p>○家庭との連携を密にし、細かな指導を心掛けた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○生徒の交通事故防止に向けての指導についても、引き続き実施していきたい。</p> <p>(学校評価)</p> <p>○行事について、目標を立てて実施した。</p> <p>○生徒がいろいろな場面で活躍できた。</p> <p>○スクールカウンセラーが月に一度来校し、利用率も高まった。</p> <p>○スクールカウンセラーと連携し、研修会、ケース会議、教育相談会議を実施した。</p>
---	---	---	--	---	---	---

<p>3 習得段階を意識した双方向の授業を行い、思考力、判断力、表現力の向上に取り組み、確かな学力の定着をめざす。</p>	<p>① 積極的に授業改善に取り組む、学力向上を図るため、生徒による授業評価、教員相互の授業参観や研究授業など校内研修をより充実させる。</p> <p>②基礎・基本の学習内容を定着させるため、年間を通して補習・講習や追試指導などを実施する。</p> <p>③課題研究の内容や取組み状況を充実させるため、外部との連携を推進する。</p>	<p>①「わかる、憶える、できる、教える」といった習得段階を意識した教育実践が行われ、授業評価においてその成果が現れているか。</p> <p>②・生徒の実情やニーズを踏まえた学習を展開することができたか。</p> <p>・より多くの生徒に学習習慣を身に付けさせることができたか。</p> <p>・成績不振者を減らすことができたか。</p> <p>③課題解決に向け意欲的に取組む姿勢を養うことができたか。</p>	<p>○授業アンケートを2回実施(7月・12月)した。1回目、2回目ともに集計は完了している。研究授業や次年度に向けて有効に活用できた。</p> <p>○授業アンケートのプラス評価は前年度と比較して49/128であった。79/128の項目が減少した。</p> <p>○外部人材を活用した、全職員参加による授業研究会を2回(6月4日、9月30日)実施し、授業改善を図った。</p> <p>○研究授業実施回数(延べ回数・講座数・テーマ数)は組織的な授業改善の取組の結果、昨年度と同等数であった。</p> <p>○3年生の生徒・保護者へのアンケートは1月に実施した。1・2年生には3月に実施した。</p> <p>○年間を通じて多くの補習・補講が行われた。また、資格検定に向け全職員で放課後補習にあたるだけでなく各系においてもきめ細かな補習が行われた。</p> <p>○教科担当とクラス担任の連携を密にして、生徒の出席・学習の状況把握に努めた。また、掲示物や配布物で、行事予定(試験日程等)を生徒に意識させた。</p> <p>○年間指導計画に沿って授業展開ができている。また、外部と連携が図れなかった。</p> <p>○課題研究発表会向け研究成果の整理やプレゼンテーションなどの準備に取り組んでいる。</p>	<p>○成績不振者に対する補習などの学習指導が計画的に行われ、成績も改善されていると新たな成績不振者がでてくるため、授業における学力の定着を図っていきたい。</p> <p>○定期試験までの出席状況・学習状況をさらに把握できるようにする。家庭との連携が不可欠であり、生徒の自律意識を高めたい。</p> <p>○課題研究発表会の会場や日程調整が困難であった。</p> <p>○外部との連携が実施できなかったが、実施に向け計画をしたい。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>○教員も勉強しないとだめだと思う。</p> <p>○授業改善を評価に反映するなど、何か工夫が必要だと思う。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○発表の中ですばらしいものがいっつかあった。</p> <p>○なぜ研究をやるのか、意味や趣旨をよく理解していないグループが多くあり、残念であった。</p> <p>○課題にとりかかる時期が遅く、計画が不十分である。</p> <p>○会場内が騒がしく、発表会に対する真剣味がないと感じた。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○組織的な授業改善のための校内研修を2回実施した。</p> <p>○生徒による授業評価集計結果では、生徒の自主性の低下が懸念される。項目8の「自分自身の取組状況」について、評価が上がるように力を入れていきたい。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○入学者選抜では、前年度、定員割れとなったため、中学校へのPR活動に力を注いだ。</p> <p>(学校評価)</p> <p>○課題研究会では、生徒の計画内容や取組みがあまりよくなかった。</p>
---	---	---	--	---	--	--

<p>4 特別活動やキャリア教育・職業教育の充実を図り、生徒の社会生活実践力を育成し、進路希望の実現をめざす。</p>	<p>① 生徒が主体的に進路選択をできるよう、総合ガイダンスや進路説明会等を通して支援をする。</p> <p>② インターンシップの参加を推進するとともに、インターンシップ発表会を充実させる。</p> <p>③ 学校行事に対する生徒の主体的な取組みを支援するとともに、部活動紹介や発表の機会を増やす等の工夫を凝らし、部活動の活性化を図る。</p>	<p>①・「総合ガイダンスが有益である」「進路希望に応じた進路指導が行われている」という生徒が昨年より増えたか。 ・個々の生徒の実情に応じた進路指導ができたか。</p> <p>②・インターンシップへの参加生徒を増やすことができたか。 ・生徒のプレゼンテーション能力の向上に積極的に取組んだか。</p> <p>③・「学校行事に積極的に参加している」という生徒を増やすことができたか。 ・部活動の加入率が50%を超えたか。</p>	<p>○生徒の希望を調整し、2学期に系選択を決定することができた。3学期には、各系に分かれての「ガイダンス」や「職業理解ガイダンス」を通して自分が進む系や進路への理解を深めた。 ○進路グループと連携し、進路ガイダンスや地元企業の説明会を行ったり、SPI2模試を実施したりして、生徒が自らの進路について考えられるよう支援した。 ○進路指導担当者をサポートして、学年職員が生徒の状況把握と書類準備等で個別指導を行った。生徒個々の理由によって、卒業時まで進路活動継続中の生徒がいた。 ○12月に進路説明会(6社、17校)を、2月に高校内企業説明会(8社)を実施した。 ○2年のインターンシップの参加者は、昨年度よりやや増加した。 ○インターンシップの参加者は、昨年度よりも若干増加した。湘南鎌倉地区は、抽選なので増減があるが、各系でのインターンシップの数が増加した。(71名⇒83名) 記録の冊子作り、発表会に向けてのプレゼンテーションの準備も現在行っている。 ○球技大会では、各クラス全員出場できるような種目を組んでいる。 ○各クラスに賞状を出すことができた。藤工祭の生徒アンケートからつまらなかったという意見が減った。 ○生徒会行事がトラブルなくスムーズに運営できていることから、生徒が協力の意識を持って参加している。 ○部活動の加入状況は、運動部 28.7% 文化部 19%合計 47.7% (4月調査) 一人2部活も含む。地区大会を勝ち抜き県大会に出場できる生徒が出てきた。</p>	<p>○1年は、系選択において希望が定員を上回り、評定平均順に選考した。決定方法について検討の余地がある。 ○2年は、インターンシップ参加者も昨年を上回り、生徒の進路に向かう意識も少しずつ高まっていると思われる。今後も、生徒が自らの進路について考え、納得できる決定ができるよう、支援していきたい。 ○3年については、学年進行に沿って、3年次当初から、生徒および保護者の目的意識を高めたい。また、年間を通して、3年生としての将来に向けた生活態度・学習態度をi意識させたい。 ○地域や産業界と連携したキャリア教育により、生徒の職業観・勤労観の育成することができた。2020年を意識し、卒業までにより良い進路選択ができるような継続的な指導が必要である。 ○インターンシップや職場体験の参加生徒に対して、応援・指導を行った。 ○インターンシップの組織的な取り組みとして、今後も体制を維持するために職員の理解と全職員の協力体制が不可欠である。校内での発表会を実施した。 ○藤工祭では学校の特色を生かし、工業系展、各教科展示を増やしていき、そこに生徒が主体的に取り組める場を作りたい。 ○28年度の部活動加入促進計画を本部役員と計画した。各部 大会記録掲示ボードを昇降口につくり掲示した。通年を通して、部活部員募集ポスターの掲示場所を3階につくる。</p>	<p>(保護者) ○部活動について、活動をサポートして欲しい。 (学校評議員) ○部活動の加入率を上げてほしい。 ○先生方のちょっとした気配りが必要である。</p>	<p>(学校評価) ○1学年では、ガイダンスを実施し、進路理解を深めた。</p> <p>(改善方策等) ○インターンシップを通して、企業とのつながりを強めたい。</p> <p>(学校評価) ○部活動加入率は、47.7%となり、5.1%増加した。 ○運動部だけでなく、文化部についても部活動の活性化を図りたい。 ○生徒の学校行事への意欲的な参加を高める。</p>
---	---	---	--	--	--	--

<p>5 保護者や地域と連携した教育活動を通して、地域に開かれた学校づくりをめざす。</p>	<p>① 積極的に社会参加する能力や態度を育成するため、家庭・地域と協働した教育を実践する。</p> <p>② 生徒が主体的に学習姿勢を振り返られるように、小・中学校や地域との連携・交流事業を充実させる。</p> <p>③ 近隣の学校や地域との連携を深めるため、工科高校の特長を生かした地域貢献活動に全校で取組む。</p>	<p>① 地域と交流する機会を通して生徒の社会性を育むことができたか。</p> <p>② 連携・交流事業において、生徒が主体的に活動できたか。</p> <p>③ 他者とのかかわりを大切にする心を育むことができたか。</p> <p>・地域社会との交流活動を通して、社会貢献や奉仕の姿勢を養うことができたか。</p>	<p>○ものづくり体験教室への参加者数は95名(小学生38名、中学生42名、PTA15名)と昨年度の130名を下回った。講師役の生徒は43名参加し、86%の生徒が「参加してよかった」と答えた。11月10日に小学生との交流事業を行い、9講座設け、亀井野小学校6年生(99名)対象に実施した。講師役の生徒は93名参加し昨年度より大幅に増加した。</p> <p>○取材・紹介回数は前年より増えた。TVKにて放映された。</p> <p>○学校説明会は3回実施した。第1回(7月)は229名と昨年並みであったが、第2回(11月)は350名、第3回(12月)は206名の参加と昨年より人数が増加した</p> <p>○PTA各委員会と連携し、藤工祭や球技大会などの行事での支援や校内美化を積極的に行った。</p> <p>○ホームページを活用し、募集の呼びかけから実施後の様子を掲載した。また、リーフレット「かながわサイエンスサマー」による広報活動も併せて行った。</p> <p>○事業に参加した生徒に関しては、ほぼ目標が達成できた。参加者数も年々増加傾向にある。ものづくりを通し生徒自身が、伝える・教えることの難しさを体感することが出来た。また、校内外に広く周知することで、様々な活動が行われていることが理解された。</p> <p>○アンケート結果を通して、うまく対応できなかったことを教訓に、他人に接する態度やコミュニケーションの大切さを実感するとともに、自分が学習したものづくりに関する専門的な知識の定着が図られた。</p>	<p>○ものづくり体験教室への参加者数は減少したが、中学生の参加が増加した。実施時し、検討が必要である。</p> <p>○学校説明会の参加者数は増加したが、在校生の参加が少なかった。来年度は在校生の活用を促す必要がある。また、説明会の時期(他の行事との重なりがあった)</p> <p>○説明会内容(説明と校内見学だけでよいのか)等更なる検討が必要である。</p> <p>○PTA各委員会と連携し、引き続き、行事の支援や校内美化を積極的に行なえるよう次年度に向けて整備していく必要がある。</p> <p>○昨年度より中学生の参加者が増加した。今後は講座数や参加者数を増やす工夫が必要である。</p> <p>○学校行事が重なってしまったため事前の準備不足や指導不足があり、当日の対応にあらわれた。もっと生徒が活躍する場を増やすためにも事前準備・指導時間を確保する必要がある。</p> <p>○多くの連携事業を行っているが、様々な方面からさらなる拡充の要望があり、これ以上の対応には限度もあるため協議を重ね、お互いのニーズにあった選定を行い取捨選択していく。</p> <p>○課題は清掃活動に加えて他の活動について考える余地がある。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>○藤工に行くのと、良い体験ができるというメリットがあるのがよいと思う。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○藤工ブースが雰囲気がよく、丁寧に教えてくれるので人気である。温かみがある。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○ボランティアで生徒に来てもらい、感謝している。</p> <p>○小中学生の進路先のひとつとなるため、よい企画であると思う。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○体験学習に参加した生徒の意欲が高まった。90%以上が「参加してよかった」と回答した。</p> <p>○次の企画を何にするか、生徒と話し合っている。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○地域には、もの作りを通して学校を紹介しながら、つながりも持ちたい。</p>
--	---	--	---	---	---	--

<p>6 責任ある学校運営体制を組織的に確立し、家庭や地域から信頼される学校づくりをめざす。</p>	<p>① 教員一人ひとりが教育公務員としての自覚を持って、事故・不祥事の防止に努める。</p> <p>② 防災訓練の内容を充実させるとともに、家庭との迅速かつ的確な連絡方法を整備する。</p> <p>③ より一層、迅速かつ的確な情報発信を行う。</p> <p>・学校目標とその取り組み内容について、保護者等から適切に学校評価してもらうため、必要に応じて生徒及び保護者にアンケートを行う。</p>	<p>①組織として、事故・不祥事を防止できたか。</p> <p>②家庭との連絡体制が整備できたか。</p> <p>③・的確な情報発信ができたか。</p> <p>・具体的な手立てと評価の観点に基づき、課題を明らかにし、解決に向けて意欲的に取り組むことができたか。</p>	<p>○各グループが、事故・不祥事研修を企画し、研修を実施した。検証結果においては、プラス評価が多かった。昨年に引き続き、1月に外部講師について学ぶことができた。</p> <p>○調査書・指導要録の作成に関して学年との連携を常にはかっていたため組織的な事故防止につながった。</p> <p>○メールシステム登録者数は877名で、昨年の650名から大きく増加した。お知らせメールで年間39回で、昨年同期13回を上回った。災害時など緊急時の対応において活用した。</p> <p>○防災マニュアルを活用し、3年間継続した各学年で実施した体験的防災訓練の内容を見直し、安全指導の充実を図り、した内容で実施できた。避難経路の確認ができた。</p> <p>○ホームページは今年度、これまでに33回更新した。部活動紹介ページを充実させた。</p> <p>本年度これまでのアクセス総数は50493件であった。</p> <p>○現在実施計画中である。ペーパーでの回収とアンケートフォームでの回収で目標を下回るが50%以上の回収を目指す。</p>	<p>○不祥事ゼロをめざし、効果さらなる工夫が必要である。また、実施時期や内容を精査したい。</p> <p>○成績処理支援システムのアップデートなどにより、これまでの入力方法・作業に変更が生じるため職員への注意喚起を図りたい。</p> <p>○メールシステムについては、添付ファイルによる情報発信をする。</p> <p>○授業時間確保を視野に入れ、防災訓練の内容を見直し、安全指導の充実を図りたい。</p> <p>○月間行事予定の更新が遅れることがあったので担当グループと調整する必要がある。</p> <p>○保護者アンケート回収率を上げ、評価の増加を目指し、その評価を学校教育活動に生かす。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>○問題点や対策が、グループ内でディスカッションされているか、一枚岩になる必要がある。</p> <p>○問題点や対策が、曖昧になっていないかを確認してほしい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○各グループで不祥事防止研修の計画を立て、実施検証をした。</p> <p>○入選業務について、職員間のチェック体制を強化した。</p> <p>○教員の不祥事を未然に防ぐことができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○不祥事防止のための研修を引き続き行う。</p> <p>○地域と連携した防災訓練を実施するなど地域と関わりを強めていきたい。</p> <p>(学校評価)</p> <p>○まち comi メール利用者が増えた。</p> <p>○授業時間を減らさないようにし、防災訓練の内容を見直した。</p> <p>(学校評価)</p> <p>○情報発信、ホームページの更新回数が増えた。</p>
--	---	--	---	--	--	--